

# 空き家は泊まって解消!? 『黒船、上陸無法地帯』

外国人観光客と空き家。急増中という共通点はあるものの、一見するとミスマッチに映る組み合わせだ。しかし、この2つの特性を生かしたビジネスが今、にわかに注目を集めている。それも10兆円市場というからタダゴトではない。

「空き家や空き家を宿泊施設として貸し出すことは、欧米では昔からよく行われていました。それがインターネットの普及で一気に、世界じゅうに広まった。最近では、空き家のオーナーが各自で『Airbnb』などのポータルサイトに登録して貸し出すケースが多い。サイトを見た旅行者が各施設の設備や形態、料金や人

数などの条件を確認して、ネット上から宿泊を申し込むというシステムです」

そう解説するのは株式会

社百戦錬磨の上山康博代表取締役社長。同社は空き家を活用した宿泊サービスのポータルサイト『TOMARERU』を開発、国家戦略特区の東京圏、大阪圏での事業開始を準備している。

「外国人観光客が急増したことにより、宿泊施設の稼働率は9割超。例えば中国のお正月にあたる春節の2月、1泊5万円のセミダブルの部屋が完売していました。スーパーや市場などの生活圏に興味を持ったり、家族大勢でもゆっくり泊まりたいという声は多い。そうした外国人に空き家の宿泊はニーズがあるんです」

問題は、そのニーズに制度が追いつい

ていないことだ。前述したAirbnbのサイトでは、すでに日本各地の空き家オーナーが外国人に部屋を貸し出している。「旅館業法に違反するおそれかなり高いのに無法地帯となっているのが現実。ただ、空き家を使った宿泊自体は、オーナーは儲かるし、観光客は選択肢が増えるし、空き家問題は解消できるし、いいことづくめ。犯罪の温床になるといった不安を解消するためにも、きちんと法整備をして進めていくべきだと思います」

空き家オーナーは一考の価値あり!

